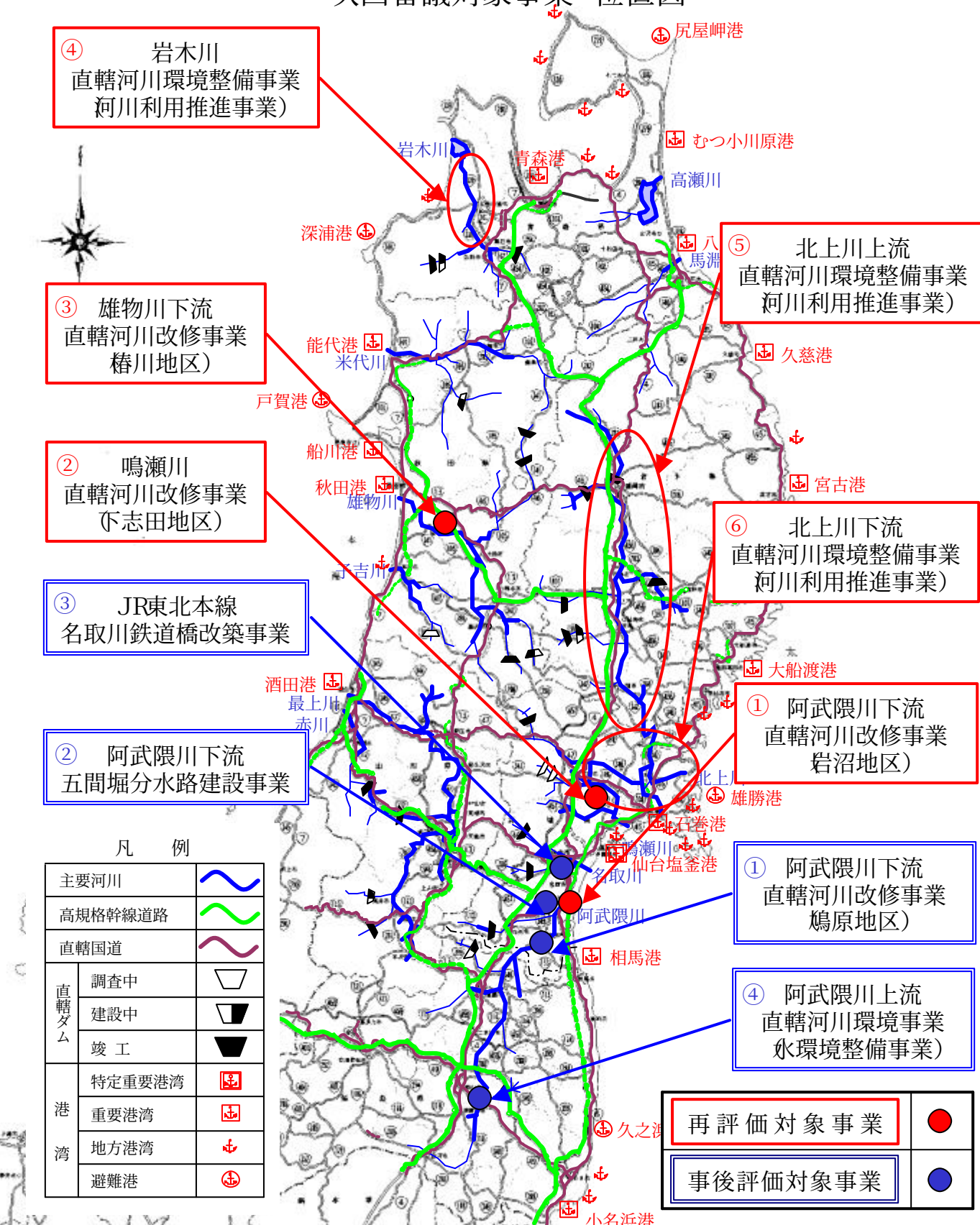
平成16年度　事業評価監視員会（第1回）
次回審議対象事業　位置図



再評価を実施する事業の一覧表（河川事業）

No	都道府県名	事業名	事業概要	事業の必要性等に関する視点	事業の進捗の見込みの視点	コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	備　　考
①	宮城	阿武隈川下流直轄河川改修事業（岩沼地区）	【事業目的】 ・阿武隈川下流岩沼地区において、堤防の強化対策を図り、治水安全度の向上を図るものである。 【計画概要】 ・改修内容 　堤防強化（断面補強、漏水対策） 　　L=11,912m ・事業費　38億円 【事業経緯】 ・事業化年度　　S53 ・工事着手年度　S53	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・背後地は仙台都市圏域の重要な資産が存在することから、堤防強化対策事業に対する地域住民の要望は非常に強い。 【事業の投資効果】 ・(全体)算定中 ・(残事業)算定中 【事業の進捗状況】 ・進捗率　　58% 【特記事項】 ・残事業は押分地区の堤防強化（断面補強及び漏水対策Ⅱ有）L=2,470mである。	・堤防強化の最優先区間であり、計画的に事業の展開を図る必要がある。 【完成目標年次】 ・平成３０年代前半	・堤防拡大を含め止水矢板打ち込みを中心とした対策工法の検討を行い、ドレーン工設置や止水護岸等の種々の対策工法の組み合わせから経済的な工法の選定を行いコスト縮減を図っている。	再評価後一定期間が経過した事業 (再評価後５年)
②	宮城	鳴瀬川直轄河川改修事業（下志田地区）	【事業目的】 ・当該地域は、昔から水害に悩まされてきた地域であり、国、県、町及び地域住民が協力して「水害に強いまちづくり事業」を進めており、その一環として、国及び県が共同で二線堤事業を実施している。 【計画概要】 ・改修内容 　二線堤：Ｌ＝7,355m 盛土Ｖ＝119.4万m3 （うち河川単独事業区間：Ｌ＝1,100m　、共同事業区間：Ｌ＝6,255m） 　水防災拠点（避難地）Ａ＝2.6ha 盛土Ｖ＝32.7万m3 ・事業費 　全体事業費：261.4億円（二線堤事業費：248.3億円、水防災拠点事業費：13.1億円） 【事業経緯】 ・事業化年度　　H2 ・工事着手年度　H3	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・公共施設や宅地開発、大型商業施設等の周辺開発が次々と完成している中、平成１４年７月には台風６号の影響により、鳴瀬川支川吉田川においては、各観測所で警戒水位を超え、地域住民は当該事業の早期完成を切望している。 【事業の投資効果】 ・(全体)算定中 ・(残事業)算定中 【事業の進捗状況】 ・進捗率　　５４．５%（平成１５年度末） 【特記事項】 ・平成１４年１１月に国道346号の400m区間について部分供用を開始し、慢性化している中心市街地の交通渋滞の緩和に寄与している。 ・平成１５年度に宮城県は「国道346号鹿島台道路改良事業」として事業再評価を受け継続事業として評価されている。	・「水害に強いまちづくり事業」のうち、バイパス事業との共同事業区間においての完成年度は平成２０年代前半となる見通しである。 【完成目標年次】 ・平成２０年代前半	・盛土の沈下対策として圧密促進工法において経済性・施工性・工期短縮に優れた「袋詰式サンドドレーン工法（パックドレーン工法）」を採用しコスト縮減を推進している。 ・ＪＲ跨線橋と高架橋の２橋の長大橋が計画されているが、形式及び橋長の見直し等によりコスト縮減を図っている。	再評価後一定期間が経過した事業 (再評価後５年)

再評価を実施する事業の一覧表（河川事業）

No	都道府県名	事業名	事業概要	事業の必要性等に関する視点	事業の進捗の見込みの視点	コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	備　　考
③	秋田	雄物川下流直轄河川改修事業 （椿川地区）	【事業目的】 ・無堤区間である雄物川下流椿川地区の治水安全度の向上を図るものである。 【計画概要】 ・改修内容 　築堤　4,700m ・事業費　143億円 【事業経緯】 ・事業化年度　　S60 ・工事着手年度　S62	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・事業の目的が失われるような周辺環境の変化は無い 【事業の投資効果】 ・(全体)算定中 ・(残事業)算定中 【事業の進捗状況】 ・進捗率　　89% 【特記事項】 ・無堤地区のため水害常襲地帯となっており、戦後最大の昭和２２年７月洪水及び、昭和４７年７月洪水、昭和５５年４月洪水等で家屋の浸水被害を受けている。	・平成１４年度までに一連区間4,700mのうち4,000mの築堤完成をもって概成している。（Ｈ２４まで特定公共用地先行取得分の償還が残っている） 【完成目標年次】 ・平成２０年代前半	・高水敷掘削土を築堤材に流用及び堤防法面（川裏側）の法覆工に種子吹付を採用することにより、コスト縮減を図っている。	再評価後一定期間が経過した事業 (再評価後５年)
④	青森	岩木川 直轄河川環境整備事業 （河川利用推進事業）	【事業目的】 ・岩木川において、親水や舟運等の河川利用の推進を図るために必要な河道や施設等の整備を行うものである。 【計画概要】 ・事業延長　　８０．６㎞ ・事業費　　約19億円 【事業経緯】 ・事業化年度　　H7 ・供用済み区間 　弘前地区水辺プラザ 　白子地区 　鶴田地区 　柏地区 　五所川原地区（藻川） 　稲垣地区 　市浦地区	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・供用済み区間では、レクリエーション活動、清掃活動などが実施されているとともに、年間利用者が増加するなど地域活性化にも役立っている。 【事業の投資効果】 ・全体　　算定中 ・残事業　算定中 【事業の進捗状況】 ・進捗率　　約７８％ 【特記事項】 沿川自治体からの要望 沿川自治体から維持管理の支援 ・上記の視点から今後も事業進捗が望まれる	・Ｈ１６年度 　五所川原地区環境整備中 ・Ｈ１７年度以降 　岩木地区水辺の楽校整備予定他 【完成目標年次】 　平成２０年代前半	・掘削土を改修工事に流用岩木地区において発生する土砂30,000㎥の内10,000m3を消流雪用水導入事業の導水路工事の盛土材として流用する。 ・極力、周辺環境に配慮し現場発生材や間伐材の使用に努める。	事業採択後長期間が経過した時点で継続中の事業 (事業採択後10年)

再評価を実施する事業の一覧表（河川事業）

No	都道府県名	事業名	事業概要	事業の必要性等に関する視点	事業の進捗の見込みの視点	コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	備　　考
⑤	岩手	北上川上流 直轄河川環境整備事業 （河川利用推進事業）	【事業目的】 ・北上川上流において、歴史回廊のネットワークの核となる交流拠点として親水、自然の学習、休息、交流、連携、流域、地域の情報発信等を担うものとして、水辺プラザを整備するものである。 【計画概要】 ・事業箇所　198.4km ・事業費　約28.7億円 【事業経緯】 ・事業化年度　H7 ・供用済み区間 盛岡地区水辺プラザ 石鳥谷地区水辺プラザ 花巻地区水辺プラザ 北上地区水辺プラザ 水沢地区水辺プラザ 川崎地区水辺プラザ 東和地区水辺プラザ	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・すでに整備された水辺プラザ周辺では、伝統行事の開催、桜まつり・Ｅボート大会、川辺ウォッチングなどの特色ある利用がされている。また、利用者も増えており、背後地とともに相乗効果を得て、地域活性化につながっている。 【事業の投資効果】 ・全体　算定中 ・残事業　算定中 【事業の進捗状況】 進捗率　約　７８％ 【特記事項】 ・盛岡市、石鳥谷町、花巻市など整備した全地区と整備中の紫波地区において懇話会が実施されている。	・Ｈ１６年度 紫波地区水辺プラザ整備中 ・Ｈ１７年度以降 平泉地区水辺プラザ整備予定（世界文化遺産登録予定箇所周辺）他 【完成目標年次】 平成２０年代前半	・現地で発生した立木を散策道の木質系舗装へ購入することなく使用	新規着手時より10年が経過した時点で継続中の河川。 (事業採択後10年)
⑥	宮城	北上川下流 直轄河川環境整備事業 （河川利用推進事業）	【事業目的】 ・北上川下流において、親水や舟運等の河川利用の推進を図るために必要な河道や施設等の整備を行うものである。 【計画概要】 ・事業箇所　124.7km ・事業費　約２２億円 【事業経緯】 ・事業化年度　H7 ・供用済み区間 水押地区、 中瀬地区水辺プラザ、 月浜地区水辺プラザ、 みやぎ北上連邦水辺プラザ（登米地区・東和地区・津山地区・中田地区）、 古川水辺プラザ 和渕水辺の楽校 小牛田水辺プラザ	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・供用済み区間では、レクリエーション活動、清掃活動などが実施されているとともに、年間利用者が増加するなど地域活性化にも役立っている。 【事業の投資効果】 ・全体　算定中 ・残事業　算定中 【事業の進捗状況】 ・進捗率　約７７％ 【特記事項】 沿川自治体からの要望	・Ｈ１６～１７年度 豊里地区水辺の楽校整備中 ・Ｈ１８年度以降 北上川河川歴史公園整備予定（旧北上川分流施設周辺）他 【完成目標年次】 平成２０年代後半	他事業で発生した土砂を流用した盛土し、コスト縮減に努める	事業採択後長期間が経過した時点で継続中の事業 (事業採択後10年)